

原子力と日本人の安心観

東洋大学
中村 功

日本人の安全観

2002年～2004年度調査より

安心と安全は異なる

A. 科学的安全性(危険性)

リスクの発生確率とリスクの大きさの積

→科学者の感覚

B. 安全性(危険性)の認識

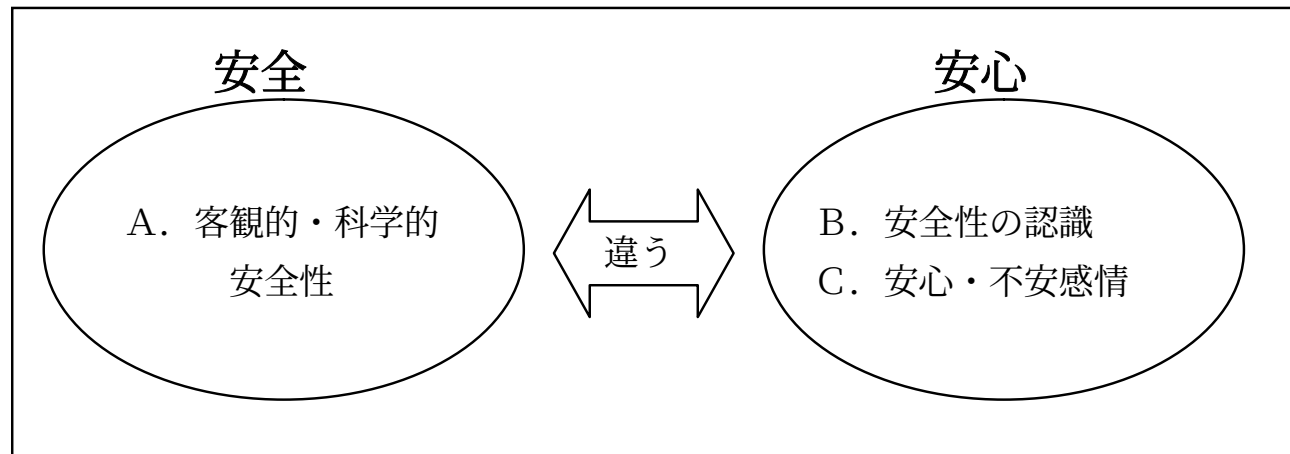
人々のもつ、ある事柄がどれほど安全(危険)であるかの認識

ただし一般人には危険性がよく分からないこともある

C. 安心・不安感情

あるリスクに対する不安心理

理由なき不安や安心もありうる。



専門家の安心と一般人の安心の構造

専門家の場合

(結びつき)

科学的安全性 → 安全性への認識 → 安心・不安感情

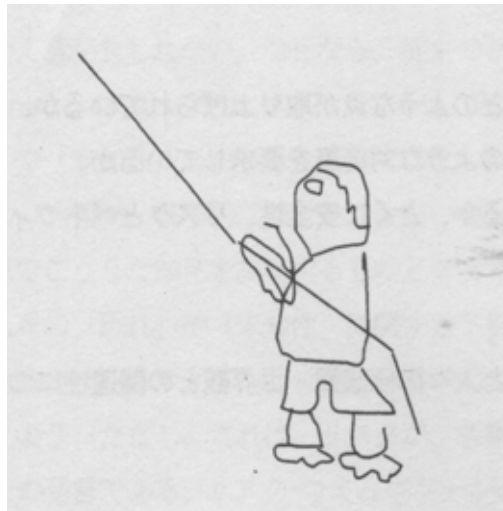
一般人の場合

(結びつき)

科学的安全性 → 安全性への認識 ↔ 安心・不安感情

「正確なこと」=「正しいこと」「適切なこと」 ではない

- 「リスクコミュニケーション」は「説得」ではなく了解・納得・相互理解が重要というが...
- リスクの客観的認識(重大性×頻度)が「正しい」認識の頂点にあると考えているのでは？
- 人々の主観的不安は正しくないと言えるか？
- 客観的「正確さ」は「正しさ」・「適切さ」とは一致しない
- 失認証の例



たこ上げの図 仲田誠2004

安心・不安に関わる要素

リスクの性質に関する要素

	要素	例
不安を高める	リスクの発生確率	南海地震の発生確率は30年で40% 降水確率50%
	リスクの重大性	大地震は大きな被害をもたらす 1mm以上の雨が降っても死ぬわけではない
	非日常性 (いつもとは違う状況だ、という感覚)	大地震の後→余震が来るのでは 山が噴火した→いつもと違うぞ ニュースで危険だと大騒ぎ→これまで食べていた牛肉と違うようにみえる ニュースは牛丼がなくなると大騒ぎ→牛肉の安全性は前と同じ
	ダメージを受けるメカニズムの不明瞭性 →不気味で不安	自然災害 災害時の外傷 →明瞭 電磁波・放射能 数年後のガン・白血病→不明瞭 環境ホルモン 数年後の遺伝障害→不明瞭 BSE 長い潜伏期間←不明瞭 飛行機事故→明瞭

対処に関わる要素

	要素	説明・例
不安を高める	関係者の対処の悪さ→不信感	①やるべき事をしていたらリスクを回避できた、と考えられるとき→責任追及 ②自らの利益のためにリスクを回避しない、利害関係者と見られるとき→不信 気象庁は利害関係者ではない→信頼 農水省は農家の利益を代表している利害関係者だ→不信 済産業省は電力業界と一体となった利害関係者だ→不信 航空機事故調査委員会は中立的だ→信頼 ③何かを隠していると考えられたとき→不信 パイロットや整備士は事故原因を隠していない 原子力関係者はいつも何かを隠している→不信
	マスコミの論調とマスコミへの接触	問題点を指摘し、危険性を訴えるマスコミ内容に接触すると、不安感が高まる
不安を低める	危険行為の慣れによる脱感作作用	①自分の過去の危険行為→正常化の偏見 (これまでずっとやってきたことだからなんとなく安心) 大雨が降っても、いつも逃げない 古い家にずっと住んでいるけど倒壊したことはない 長年、原発のそばで暮らしてきたけど別に何ともない ②多くの他者が危険行為をしていることを知る (みんなが平気でやっているんだからなんとなく安心) 多くの人が牛丼を食べているから大丈夫だろう 多くの人が飛行機に乗っているから大丈夫だろう
	代替コストが高い (選択肢がない)→あきらめ	「危ないのかも知れないけど、しかたがない」 (高) 飛行機に乗らないと時間がかかりすぎる →危険性には目をつぶろう 家の耐震補強をするには金がかかる →大地震のときには何をやっても無駄 (低) 念のため被災地近くの観光地は避け、目的地をかえよう。 原子力がなくても停電しない。火力や風力がある 念のため牛肉はやめて豚肉や鶏肉にしておこう。

受け手の信念(日本人の安全観)に関する要素

分野	要素	説明	例
1. 日本人の科学・技術観	①技術への不信	人間のやることには完璧はない	フェール・セーフといわれても信用できない
	②技術信仰	技術進歩は社会の問題を解決し、明るい未来をもたらす	「アトム」「プロジェクトX」
	③科学知識の限界（神秘主義）	科学で解明されたことは世の中のごく一部にすぎない。人知の及ばぬことがたくさんある	癌の原因、電磁波、UFO →人体に安全だといわれても信用できない。
2. 関係者への根本的不信感・信頼感	①利害関係者への不信感	自己の利益のためには、人は安全を犠牲にするものだ	利害関係者—経営者、政治家、官僚
	②お上意識	国がやっていることだから、大丈夫or逆らってもろくなことがない	原子力発電所
3. 怒りと罰の心理	①犯人探し	事故は原因を作った人（犯人）の悪意・慢心からくる	事故・火災
	②犯人の処罰	犯人を徹底的に追及し罰するべきだ→カタルシス	
	③構造的問題の無視	犯人の罪が軽くなってしまうから？→事故の再発へ	
4. 自然志向	自然志向・人工物排除	自然・天然はすばらしく、人工的なものは極力排除すべき	「自然派健康食品」「有機農法」「太陽発電好き」「薬嫌い」「天然ダム」
5. 時代背景	①不安の時代	生存の危機が去り、間接的な不安に直に向き合うようになった。	環境問題、健康不安、年金、
	②予防原則	疑わしきは回避(排除)する（極端にはゼロリスク論へ）	温暖化、有害化学物質、遺伝子組換え食品
6. 日本人の災害観	①運命論	運命だからしかたない	
	②天譴論	災害は天が人を罰したもの	
	③精神論	精神が防災・復興に最も大事	

原子力の不安は世界観・人生観 とのセット

- 原子力への不安は確かにあるが、単独ではない
- 環境問題への不安、食の安全性への不安、災害不安と高い関連がある。
- 原子力安全神話の否定、天譴論、人間不信、自然崇拜、種の保存への関心とも高い関連性
- 原発はリスクとベネフィットの問題であると同時に、「生き方」に関わる問題でもある。

原子力の危険視・不安感と関係する諸変数

偏相関係数 2004年東京都民対象の調査より

危険+不安	環境問題	食品問題	災害			
	0.518***	0.410***	0.270***			
関心+情報	原子力	環境問題	食品問題	災害	新聞接触時間	テレビ視聴時間
	0.664***	0.382***	0.319***	0.169**	-0.014	0.013
安全にかかわる意識	自然環境主義	エコ省エネ原則	ゼロリスク原則	情報公開原則		
	0.517**	0.102	0.094	-0.050		
安全を巡る観念	未知性の心理	不可視の心理	被害映像不安喚起	映像の不安喚起	種保存の心理	忌避の心理
	0.276***	0.081	0.173***	0.277***	0.232***	0.287***
	あきらめの心理					
	-0.080					
人間観・人生観	安全の神話化・人災論	天譴論	運命論	無力感	天恵論	天然論
	0.199***	0.157**	-0.017	-0.140*	0.096	0.189**
	進歩史観	事故処罰観	事故抑止観	利害関係者不信		
	-0.052	0.141*	0.109	0.145*		

原子力の危険視・不安感と関係する 諸変数の詳細①

E 問6 あなたは、次のような意見のうち、どちらの意見に賛成ですか(SA.)。

ゼロリスク

(1) 環境対策など人間の安全性にかかわる問題について(○は1つだけ)

A 経済性や効率性を考えて、合理的に優先順位をつけて対策をとっていかなければならない

B とにかく安全性を第一に、危険性がゼロになるように努力していかなければいけない

n=398

1 Aの意見に賛成 (7.5)	2 どちらかといえば Aの意見に賛成(13.3)	3 どちらともいえない (12.1)	4 どちらかといえば Bの意見に賛成(41.5)	5 Bの意見に賛成 (24.9)	無回答 (0.8)
--------------------	-----------------------------	-----------------------	-----------------------------	---------------------	--------------

スピード

(2) 環境対策や食品の問題など人間の生命や安全性にかかわる問題の情報について(○は1つだけ)

A 企業や行政は、とにかくあらゆる情報をすばやく提供すべきだ

B 企業や行政は、重要なことを厳選してわかりやすく情報を提供すべきだ

n=398

1 Aの意見に賛成 (31.7)	2 どちらかといえば Aの意見に賛成(25.1)	3 どちらともいえない (11.6)	4 どちらかといえば Bの意見に賛成(21.1)	5 Bの意見に賛成 (10.3)	無回答 (0.3)
---------------------	-----------------------------	-----------------------	-----------------------------	---------------------	--------------

自然環境

(3) ダム建設や川の堤防の整備などの公共事業について(○は1つだけ)

A 防災対策として、ダム建設や川の堤防の整備などは止むを得ない

B 自然に手を加えず、あるがまま保全することが大事だ

n=398

1 Aの意見に賛成 (14.8)	2 どちらかといえば Aの意見に賛成(29.4)	3 どちらともいえない (27.4)	4 どちらかといえば Bの意見に賛成(19.8)	5 Bの意見に賛成 (8.0)	無回答 (0.5)
---------------------	-----------------------------	-----------------------	-----------------------------	--------------------	--------------

エコロジー

(4) 環境問題やエネルギーの問題について(○は1つだけ)

A 快適で便利な生活を多少犠牲にしても、環境対策・省エネを進めるべきだ

B 快適で便利な生活を犠牲にすることなく、技術発展によって、環境問題やエネルギー問題を解決すべきだ

n=398

1 Aの意見に賛成 (17.1)	2 どちらかといえば Aの意見に賛成(29.6)	3 どちらともいえない (18.1)	4 どちらかといえば Bの意見に賛成(24.9)	5 Bの意見に賛成 (9.5)	無回答 (0.8)
---------------------	-----------------------------	-----------------------	-----------------------------	--------------------	--------------

原子力の危険視・不安感と関係する 諸変数の詳細②

未知性の心理	将来のことを考えると、原子力発電はなんとなく怖い	48.2
	原子力発電は目に見えないので、なんとなく、気持ちが悪い	38.4
不可視の心理	原子力事故による放射能の影響は予測できないので不安がある	89.7
	原子力事故に割る放射能汚染の影響はどのようなものかはっきりしないので不安がある	81.7
	放射能は目に見えないので、なんとなく不安がある	92.7
被害映像の不安喚起	事故による放射能汚染を訴えている人が報道されて不安を感じた	51.8
映像の不安喚起	原爆、原爆被害の映像は印象的で、なんとなく原子力発電は怖い	45.0
	防護服など事故の異常さは印象的で、なんとなく原子力発電は怖い	37.9
	原子力発電所の映像は印象的で、なんとなく怖い	31.9
種の保存	事故があったとき、幼児や将来子供に影響があるかもしれず心配だ	64.6
忌避の心理	放射能汚染が怖いので、原子力発電所の近くには住みたくない	74.6
あきらめの心理	原子力事故があるときはあるのだから、あきらめている	5.0

原子力の危険視・不安感と関係する 諸変数の詳細③

	性別 χ^2 検定	年齢 Pearson	学歴 Pearson	テレビニュース 視聴時間 Pearson	ワイドショー 視聴時間 Pearson
安全の神話化・人災論					
F 安全性については、結局、誰の言うことも信じられない			低学歴ほど	**	
G 国が「人体に安全だ」といっても、それは信用できない					
E 人間のやる事に完璧はないので安全と言われても信用できない					
天譴論					
A 「天からの警告」というものは、あるような気がする	女性ほど	*	低学歴ほど	**	見ている人ほど
B 「災害や環境問題」は、人間への、天からの警告である	女性ほど	**	低学歴ほど	**	見ている人ほど
C 「大事故などの人災」は、人間への、天からの警告である	女性ほど	*	低学歴ほど	**	見ている人ほど
D 「病気」は、人間への、天からの警告である	男性ほど	* 低年齢ほど	** 低学歴ほど	** 見ている人ほど	** 見ている人ほど
運命論					
F 人間は、みな「運命」「天命」があるような気がする			低学歴ほど	**	
F 「自然災害」による被害を受けるか受けないかは運命である	女性ほど	**	低学歴ほど	**	
G 大事故等の人災により、被害を受けるか否かは運命である	女性ほど	*	低学歴ほど	**	
H 「病気」になるかならないかは運命である	男性ほど	*	低学歴ほど	**	
無力感					
I 今の世の中では、一人一人の人間はあまりにも無力である			低学歴ほど	*	
J 人間がどんな対策をとっても自然災害の被害は防ぎようがない			低学歴ほど	*	
K 人間がどんな対策をとっても大事故等の人災は防ぎようがない			低学歴ほど	*	
L 人間がどんなに対策をとっても「病気」は防ぎようがない	男性ほど	**	低学歴ほど	*	
天恵論(自然観①)					
L 自然は人間にエネルギー、食料資源など様々な恩恵をもたらす			高学歴ほど	**	
K 自然は人間の心に潤いを与える					
P 科学で解明された事は一部で、人知の及ばぬ事はたくさんある		低年齢ほど	*		
天然論(自然観②)					
M 現代生活で人間はあまりにも自然から離れすぎてしまっている					
N 何事も天然のものはすばらしく人工的なものは極力排除すべき		高年齢ほど	* 低学歴ほど	**	

原子力の危険視・不安感と関係する 諸変数の詳細④

科学技術観

○ 技術の進歩は世の中の問題を解決し、明るい未来をもたらす

高年齢ほど *

事故抑止観

D 大規模な事故は、国の施策で減らすことができる

高年齢ほど **

C 大事故は、犯人の処罰により背景の構造的問題を解明するべき

事故犯罪観

B 大事故は、犯人を徹底的に追及し、罰するべきだ

高年齢ほど * 低学歴ほど *

A 大規模な事故は、大抵、原因を作った人の慢心や悪意からくる

高年齢ほど * 低学歴ほど * 見ている

利害関係者への不信(政治行政観・企業経済観)

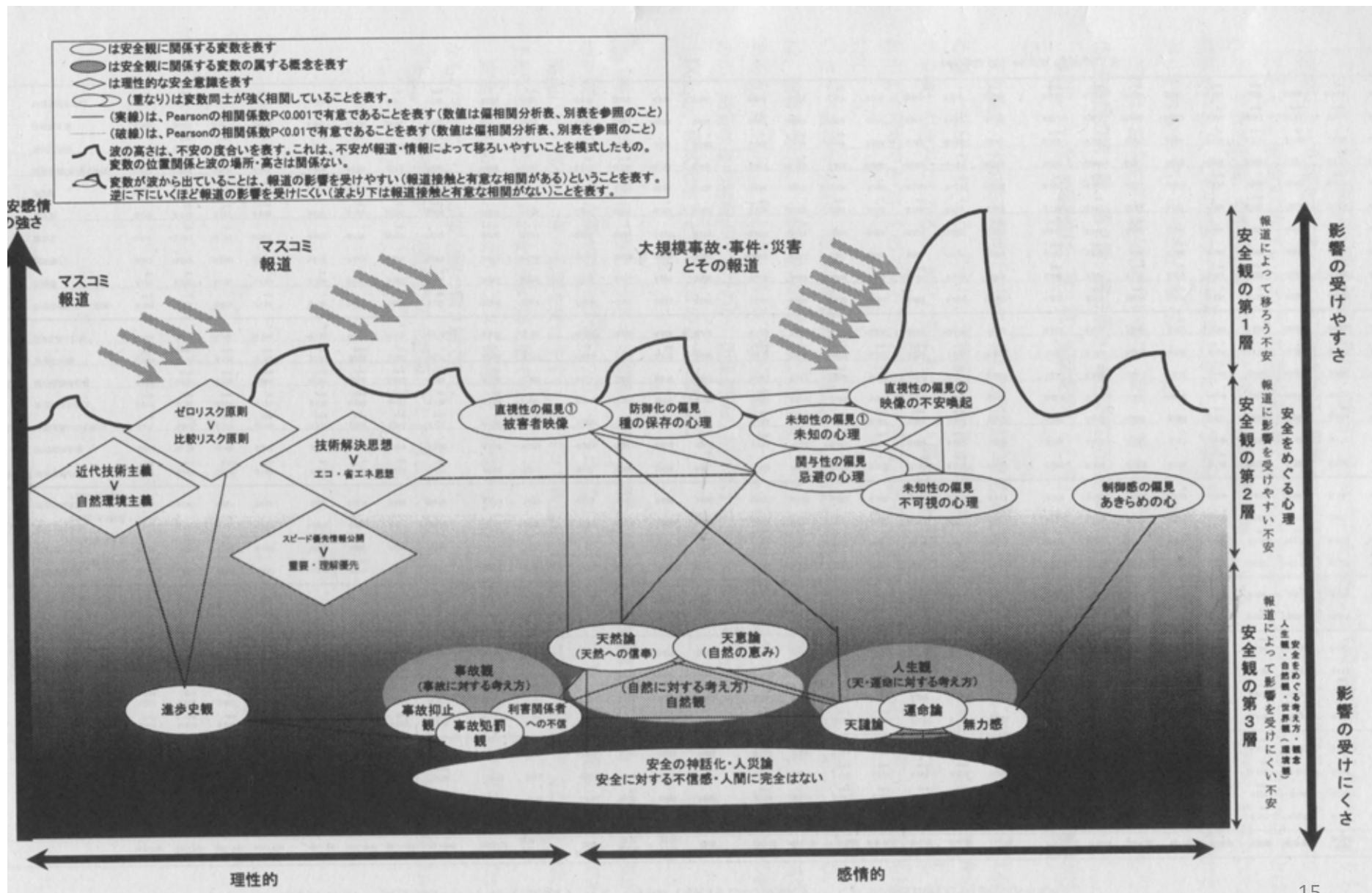
I 利害関係者は不都合な情報を常に隠している

見ている

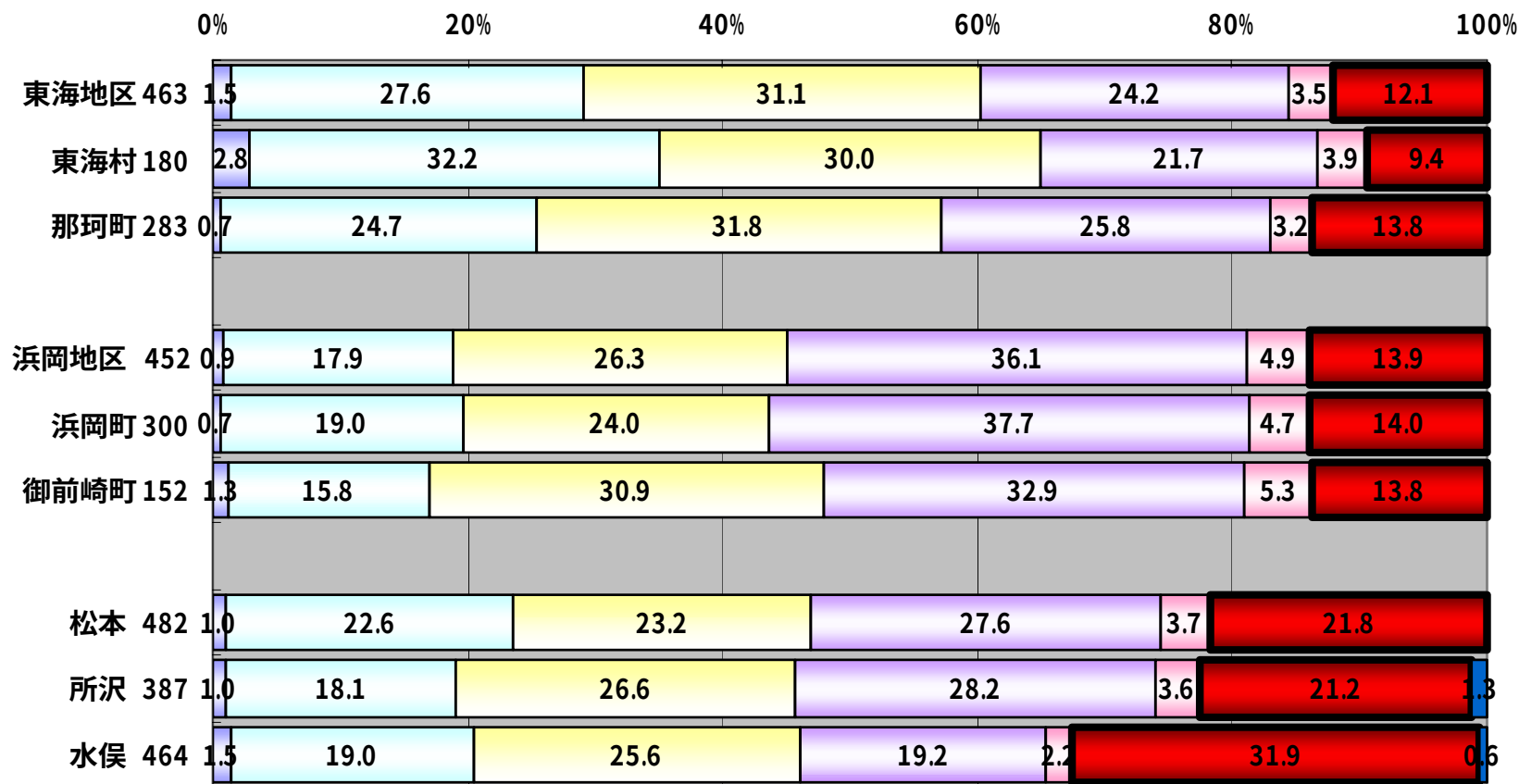
II 利害関係者は自己の利益の為に安全性を犠牲にすることがある

見ている

安全観の重層性



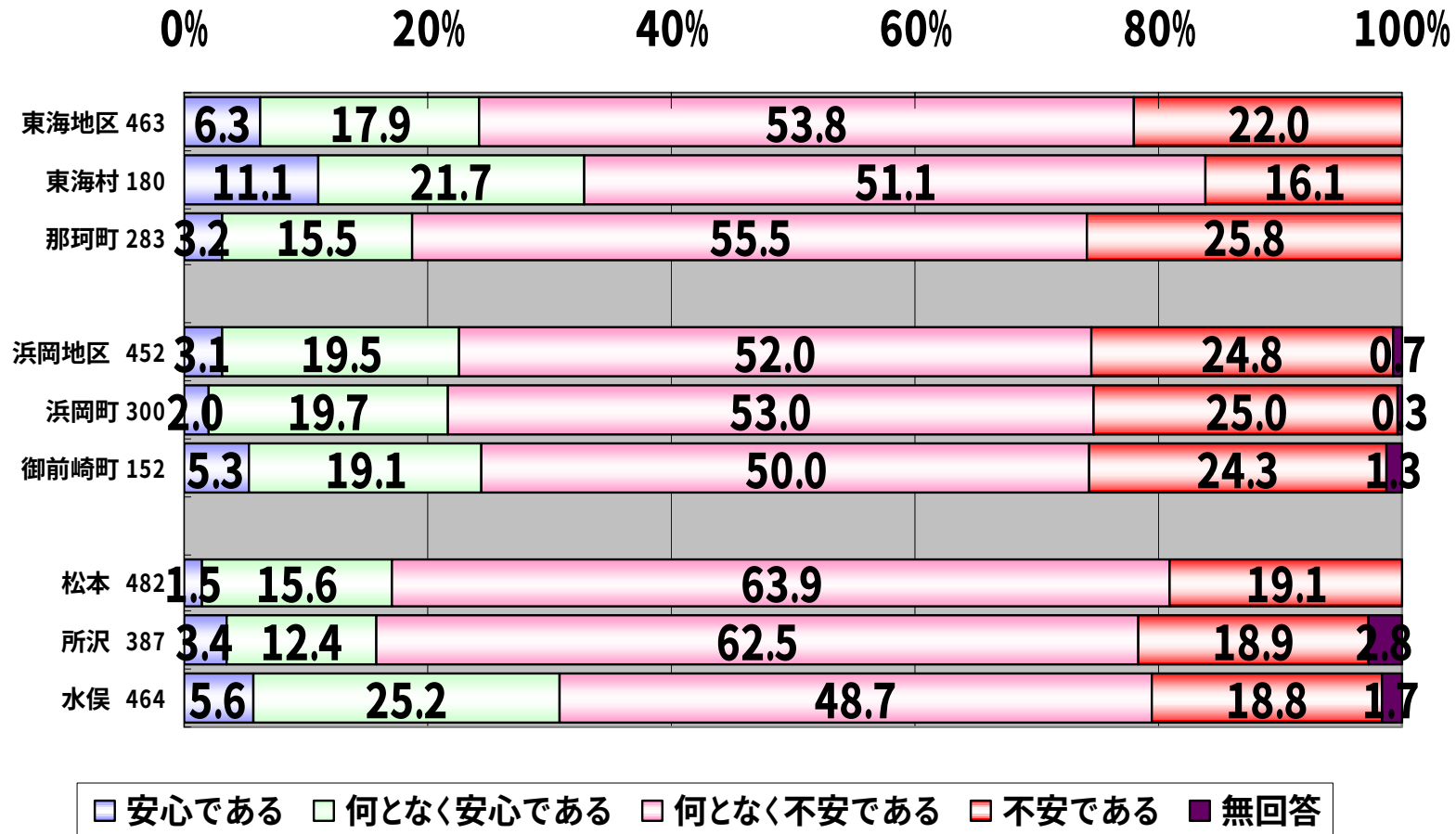
原子力：推進か、廃止か



□ 積極的に増設する □ 慎重に増設する □ 現状を維持する □ 将来的には廃止する □ 早急に廃止する ■ わからない ■ 無回答

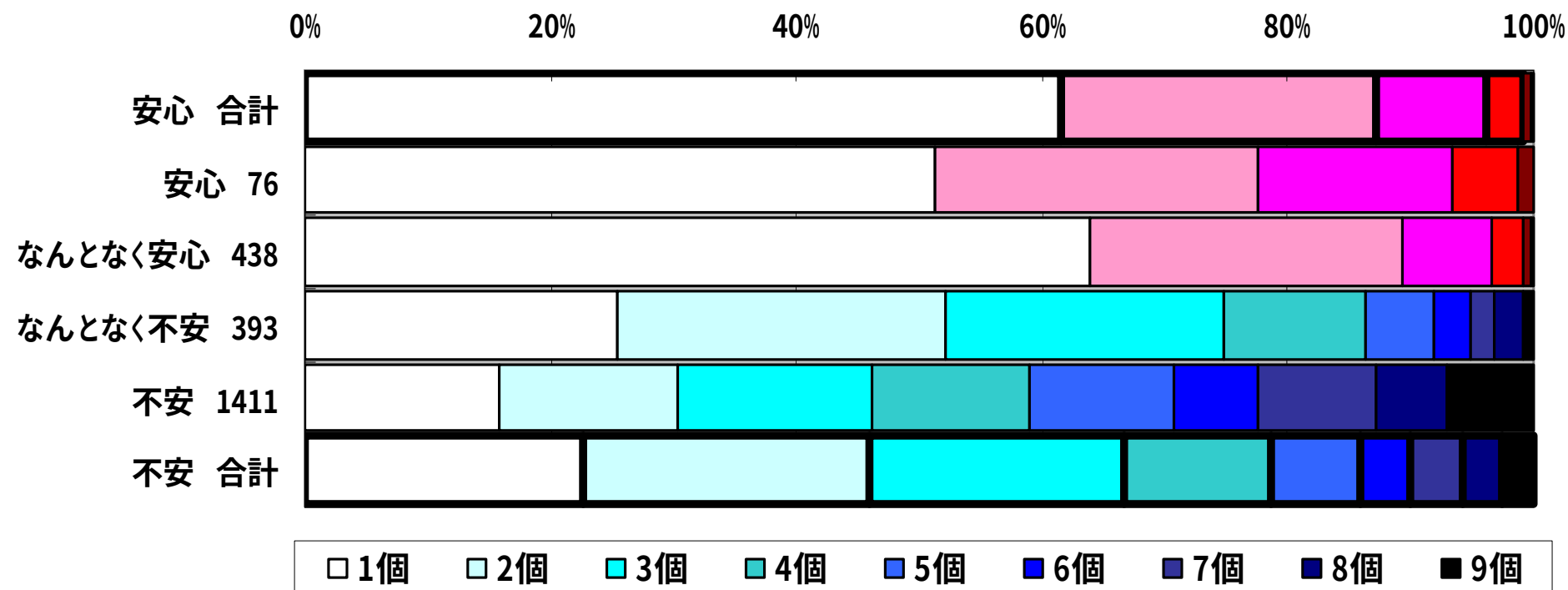
原子力発電のない地域は、今後の原子力発電の方向性について、「わからない」と答える人が多い。

原子力：安心／不安



「なんとなく不安」と答える人が多い。

原子力：安心／不安の理由



・「不安」は具体的根拠に基づいている。「不安」は具体的根拠としてあげられる項目数が多く、「安心」は具体的理由としてあげられる項目数が少ない。
 →安心には具体的理由がない。不安には具体的理由がある

安心－不安と考える理由

	%
1 日本の原子力発電所は安全だから	18.7
2 日本の原子力発電所は十分な運転実績を有するから	27.4
3 今迄、各地の原発で事故やトラブルが起ころっても、大事故には至っていないから	31.3
4 今後、事故やトラブルが起ころっても、大したことはないと思うから	8.4
5 政府・監督官庁や電気事業者を信頼しているから	21.0
6 原子力に関する情報公開が十分になされているから	8.0
7 海外でも多くの原子力発電所が運転されているから	8.9
8 原子力発電を今後すすめようという方針の諸外国があるから	1.6
9 原子力発電所は安全であるという広告・広報がなされているから	6.8
10 なんとなく	19.2
11 わからない	4.8

全般
運転実績
過去の事故
今後の事故
信頼
情報公開
諸外国の実績
諸外国の方針
広報・報道
なんとなく
わからない

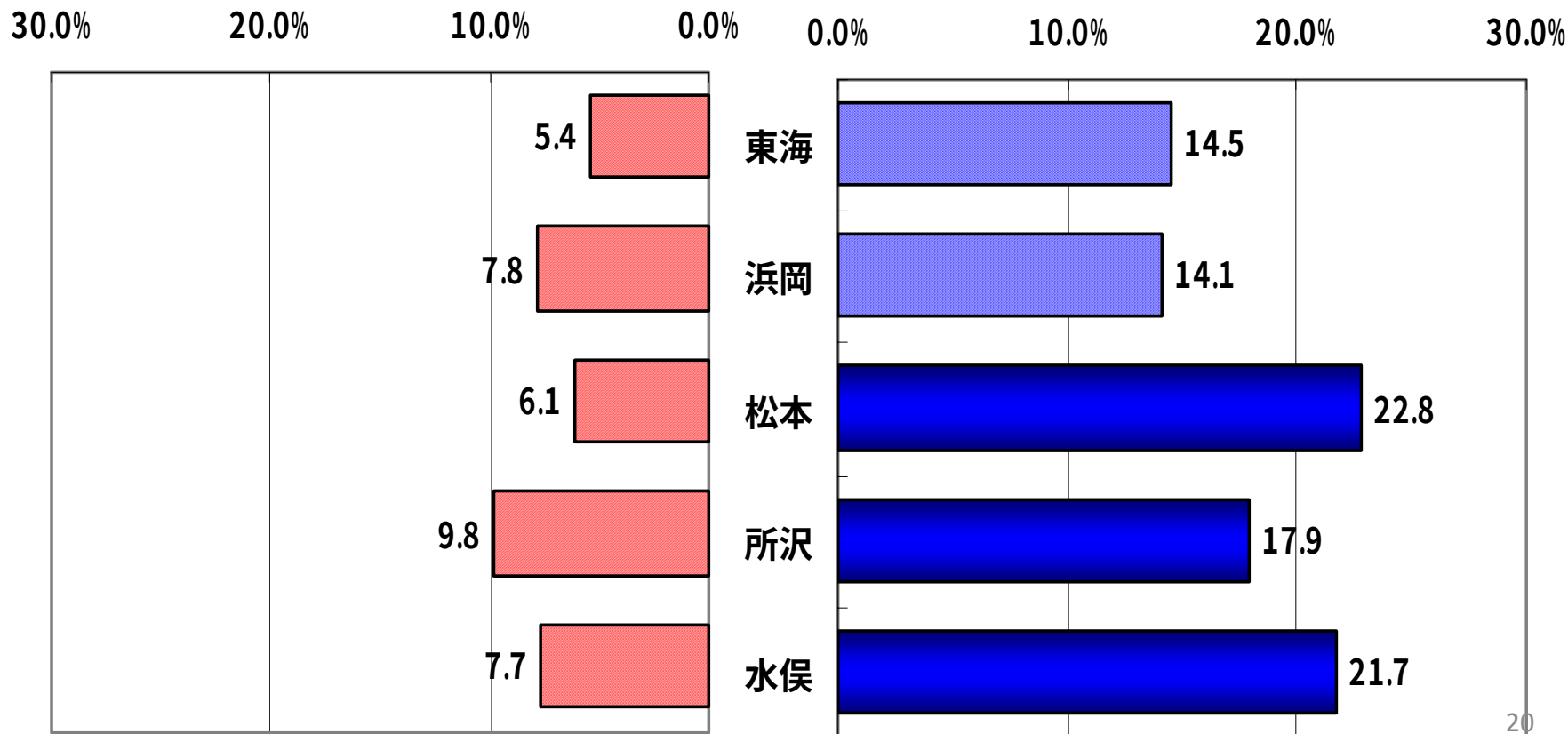
	%
1 日本の原子力発電所は安全とはいえないから	34.9
2 日本の原子力発電所は事故を起こしているから	55.8
3 今迄、各地の原発で事故や、トラブル隠し・データ改ざんの発覚が続いているから	62.6
4 今後、事故やトラブルに関する情報隠しが続くと思うから	39.2
5 政府・監督官庁や電気事業者を信頼できないから	24.2
6 原子力に関する情報公開が十分になされていないから	31.6
7 海外の原子力発電所で大きな事故が起きているから	30.1
8 原子力発電を今後やめようという方針の諸外国があるから	14.7
9 原子力発電所の故障や事故のマスコミ報道がなされているから	18.4
10 なんとなく	4.9
11 わからない	1.9

原子力と広報・報道の関係

広報活動は安心感と結びつきが低い。原発地域以外の人にとっては、報道が不安を高める原因となる。

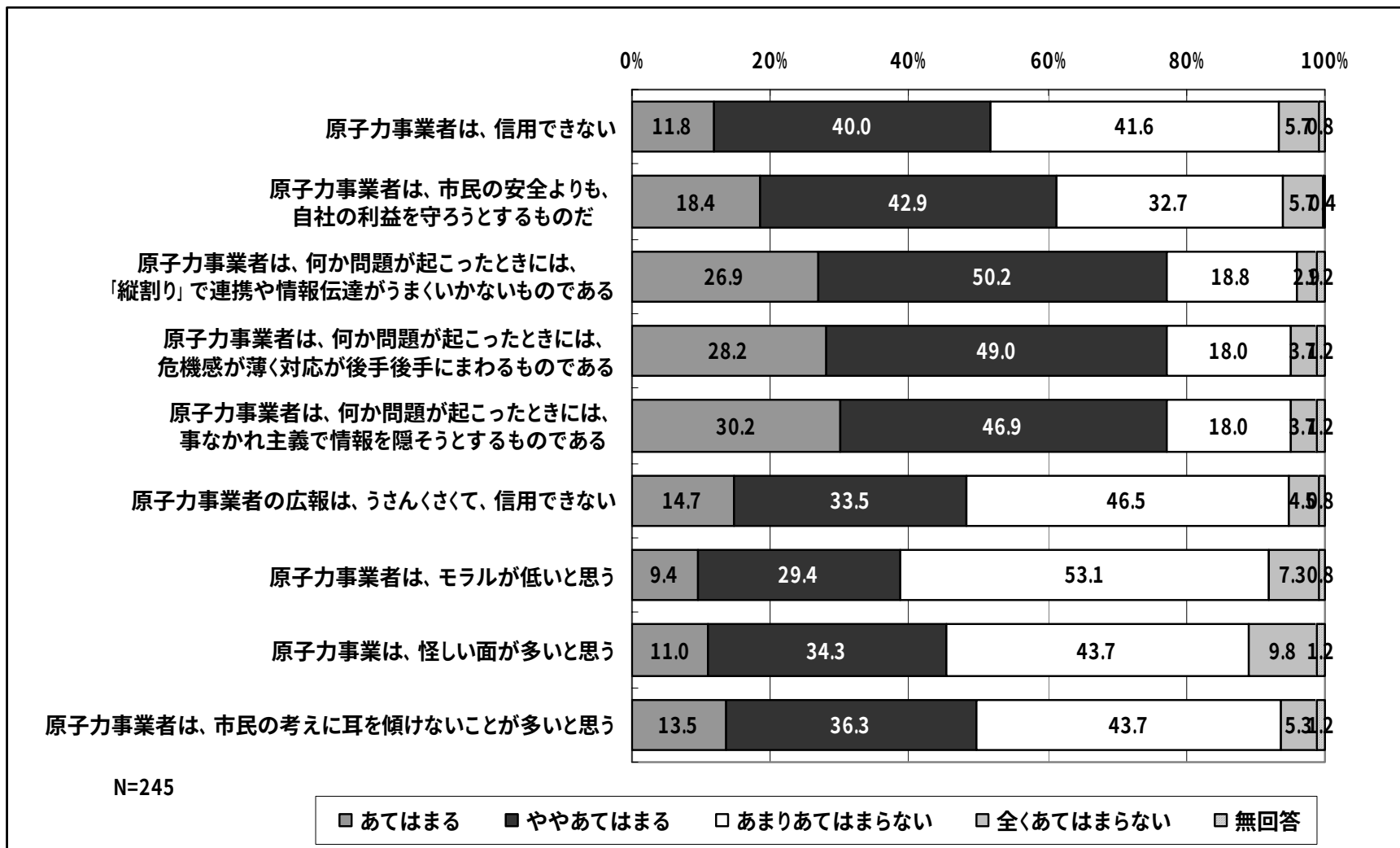
安全であるという広告・広報がなされているから安心

故障や事故のマスコミ報道がなされているので不安



原子力関係者に対する不信感

原子力発電に対する企業の対応について (東京)



不信感は不安感につながる

	問10 原子力 への不安度	有意 水準
問8. 日本の原子力発電の今後の方針	-0.27	**
問9. 現在日本の原子力発電について危険度	0.87	**

原子力事業者への不信感

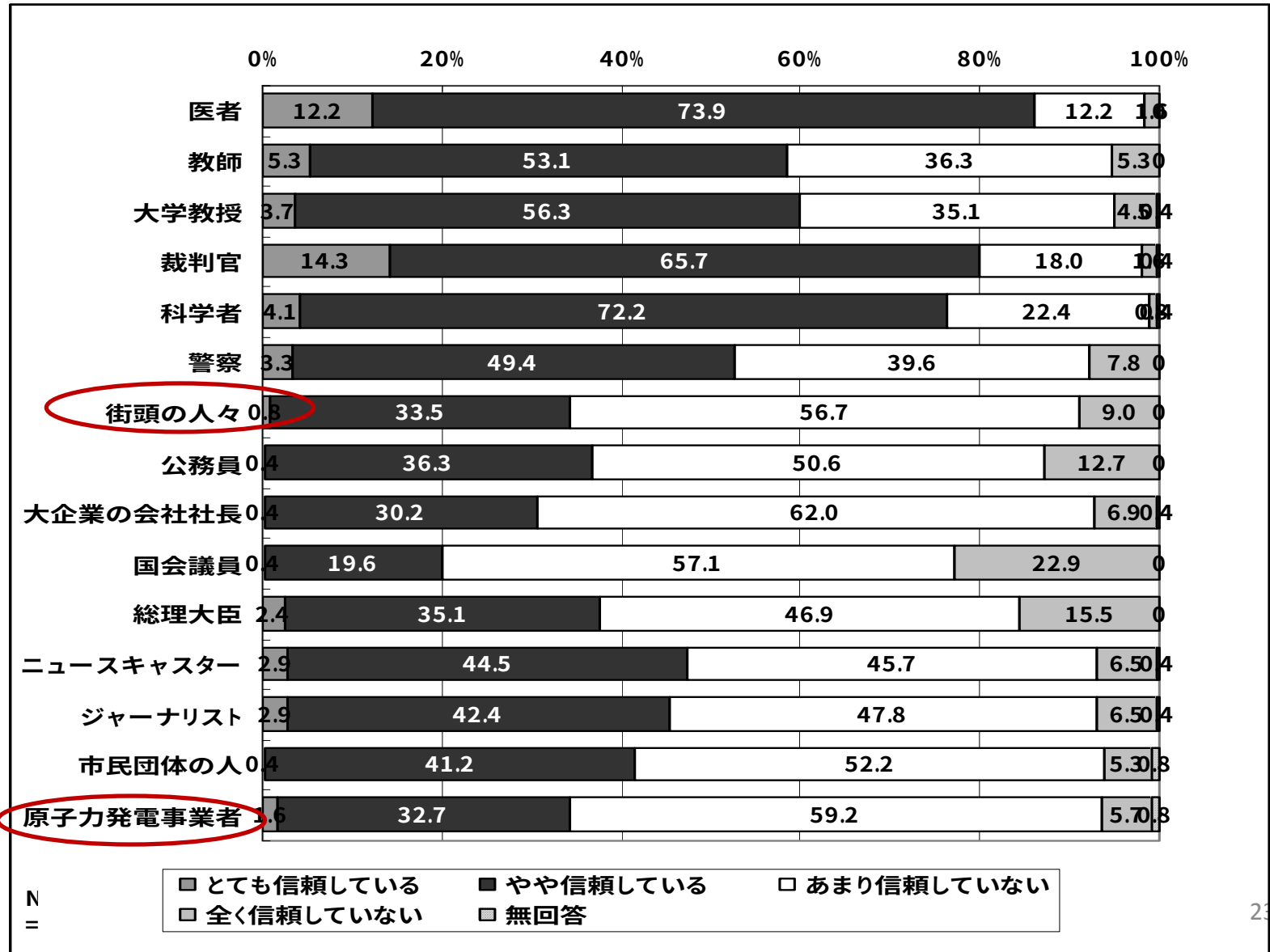
問11(6). (A) 原子力事業者は、信用できない	0.47	**
問11(6). (B) 市民の安全より、自社の利益を守ろうとする	0.43	**
問11(6). (C) 問題発生時連携や情報伝達がうまくいかない	0.38	**
問11(6). (D) 問題発生時危機感が薄く対応が後手にまわる	0.39	**
問11(6). (E) 問題発生時、事なかれ主義で情報隠匿する	0.40	**
問11(6). (F) 広報はうさんくさくて、信用できない	0.49	**
問11(6). (G) 原子力事業者は、モラルが低いと思う	0.44	**
問11(6). (H) 原子力事業は、怪しい面が多いと思う	0.45	**
問11(6). (I) 市民の考えに耳を傾けないことが多いと思う	0.41	**

政府(国)への不信感

問11(7). (A) 政府(国)は、信用できない	0.40	**
問11(7). (B) 市民の安全より業界の保護に目が向いている	0.40	**
問11(7). (C) 問題発生時連携や情報伝達がうまくいかない	0.29	**
問11(7). (D) 問題発生時危機感が薄く対応が後手にまわる	0.33	**
問11(7). (E) 問題発生時、事なかれ主義で情報隠匿する	0.28	**
問11(7). (F) 広報はうさんくさくて、信用できない	0.34	**
問11(7). (G) 政府(国)は、モラルが低いと思う	0.32	**
問11(7). (H) 政府(国)は、怪しい面が多いと思う	0.34	**
問11(7). (I) 市民の考えに耳を傾けないことが多いと思う	0.35	**

信頼感—原子力事業者は街頭の人なみ

「本当のことを言っている」と信頼しているか(東京)



(参考)アメリカ・イギリスの場合

本当のことを言っている」と信頼している人物

	アメリカ(%)		イギリス(%)	
	信頼している	信頼していない	信頼している	信頼していない
医者	83	13	91	7
教師	86	13	89	7
聖職者／司祭	85	13	80	14
大学教授	77	19	80	14
裁判官	79	18	77	16
ニュースキャスター	44	52	74	17
科学者	79	18	63	27
警察	75	23	61	31
街頭の普通の人々	71	25	60	28
世論調査員	55	38	49	35
公務員	70	27	47	41
労働組合役員	37	58	39	47
ビジネスリーダー	49	47	28	60
国会議員	46	51	23	70
大統領	54	44		
ジャーナリスト	43	52	15	79

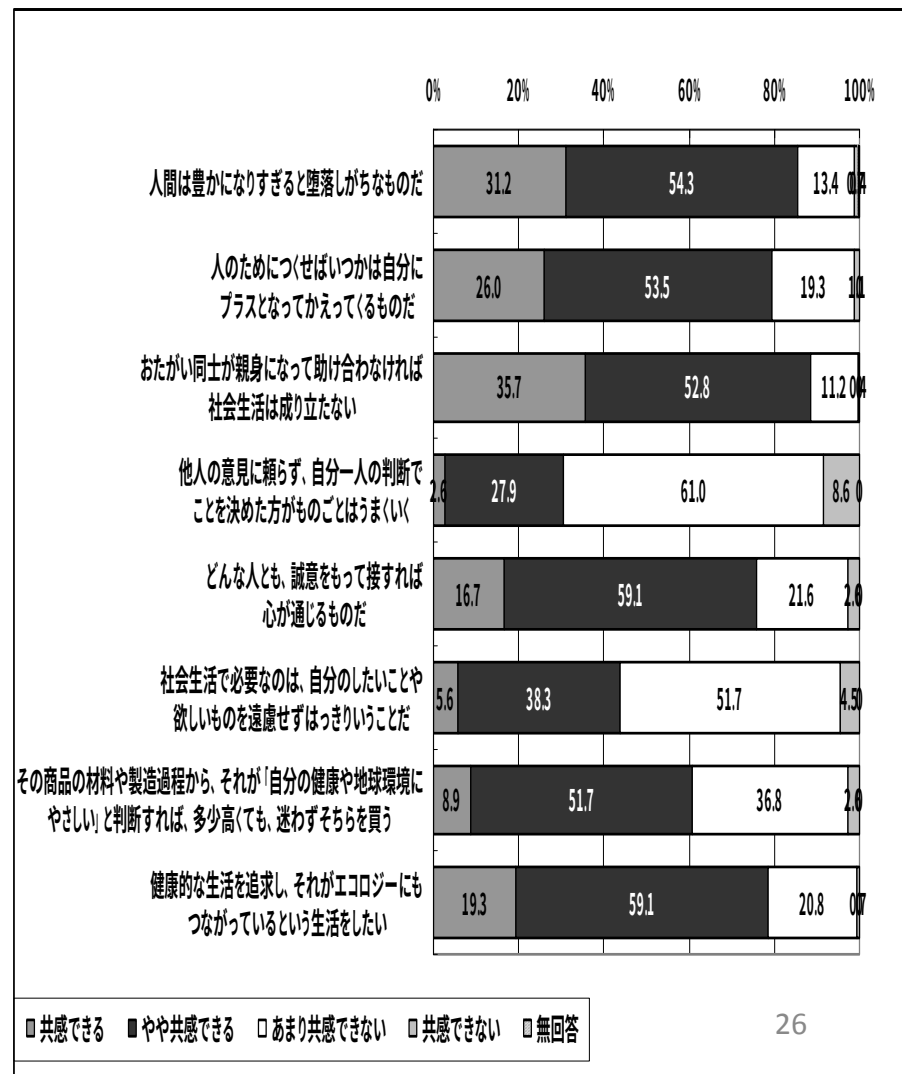
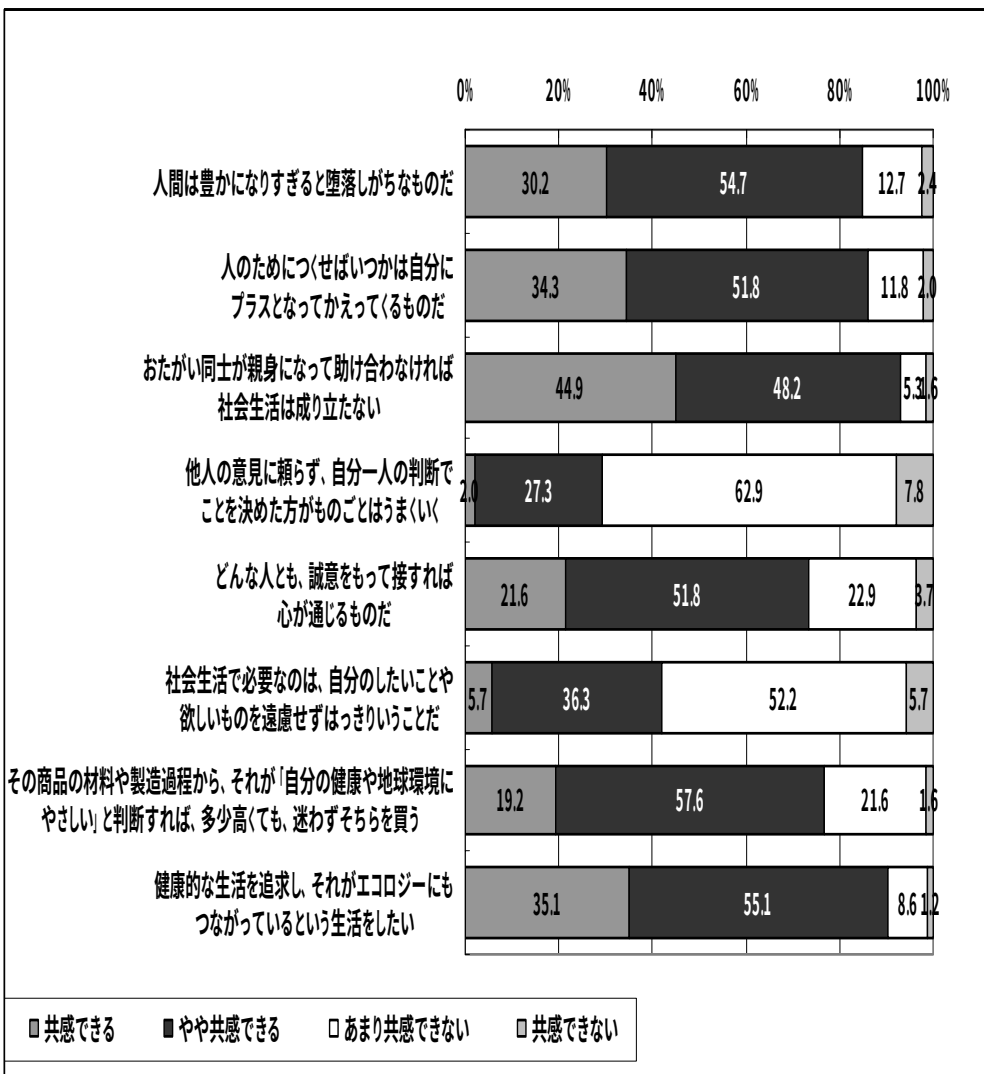
ロハス志向は原子力への不安につながる？

- **ロハス (LOHAS) とは、Life styles of Health and Sustainability の略語で、「健康と地球環境」意識の高いライフスタイルをさすとされている。**
 - ①環境にやさしいライフスタイルを心がけている。(ex.商品の選択をする場合、価格よりも性能が良い、環境に優しい、デザインが良いが判断の大切なポイントと考えている。)
 - ②持続可能な経済の実現を願っている。(例えば、地球環境に負荷をかけない、風力発電等の自然エネルギーの活用、サステナブルな農業、地球温暖化の防止、エネルギー源の水素化の実現など)
 - ③予防医学・代替医療を心がけ、なるべく薬に頼らない。(ex.運動、食育、医学についても気にかけている。)
 - ④ヘルシーな食品やナチュラルなパーソナルケア製品を愛用している。(ex.有機野菜や化学添加物の少ない食品を選び、自然系洗剤等を使う。)
 - ⑤自己啓発のために投資する。(ex.異文化との接触、ヨガや習い事、友人関係への時間投資)
- **マーケティング戦略として、ある消費性向を持つ消費者をとらえ、育てていくところに、主な目的があった。ライフスタイルというより、単なるデザインや趣味における「流行」と同じような意味を持つようになる。**

広まる口ハス

東京(左)

福井(右)



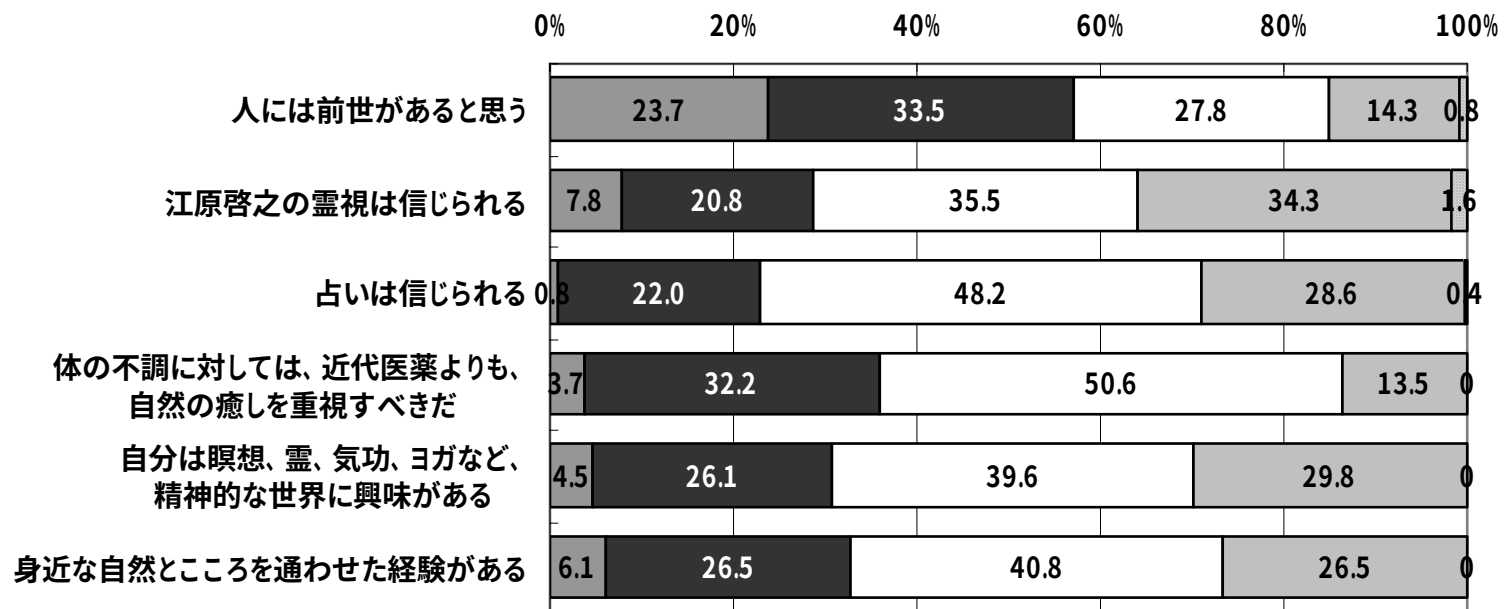
ロハスと原子力発電への不安との相関係数 (全体)

	原子力への不安度	有意水準
問36. (A) 人間は豊かになりすぎると墮落しがちなものだ	0.14	**
問36. (B) 人につくせばいつか自分にかえってくるものだ	0.08	
問36. (C) おたがいに助け合わなければ社会生活は成立たない	0.16	**
問36. (D) 自分一人の判断でことを決めた方がうまくいく	-0.08	
問36. (E) 誰でも、誠意をもって接すれば心が通じるものだ	0.03	
問36. (F) 社会生活に要なのは自分の要求をはっきりいうことだ	-0.03	
問36. (G) 健康や地球環境にやさしい物は多少高くても買う	0.13	**
問36. (H) エコロジーにもつながっているという生活をしたい	0.14	**

スピリチュアリティ志向

- スピリチュアリティは霊性とも訳されるが、近代科学とは異なる次元で物事を理解し、対処しようとする思考である。そこでは精神世界、宗教、魂、瞑想などが重視されている。

2006東京調査



N=245

■ そう思う ■ ややそう思う □ あまりそう思わない □ 全くそう思わない □ 無回答

スピリチュアリティ志向と各変数との 相関係数

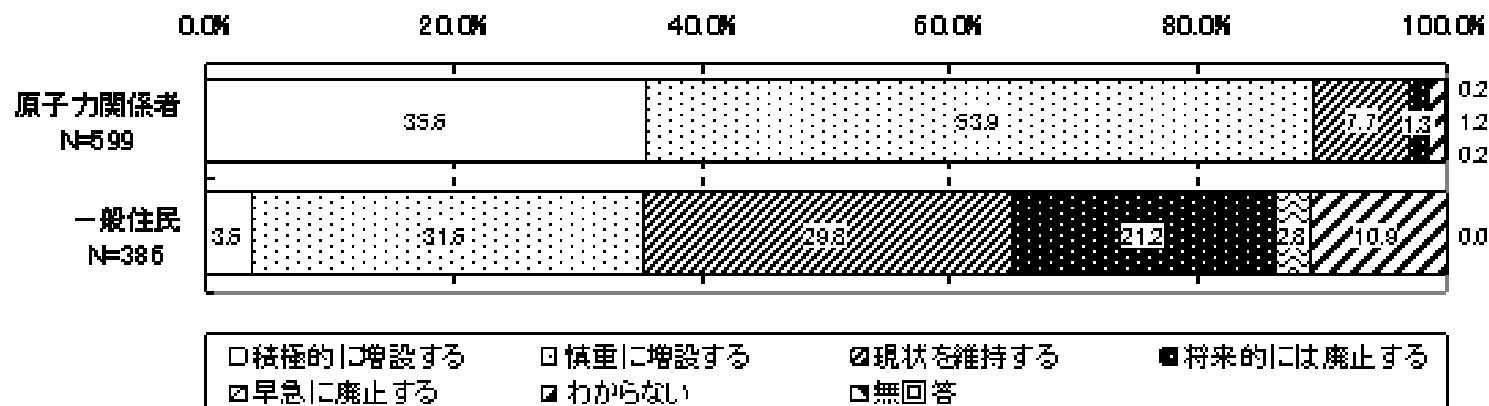
	原子力への不安度	性別	年齢
問39. (A) 人には前世があると思う	0.02	-0.13**	0.12**
問39. (B) 江原啓之の霊視は信じられる	0.02	-0.19**	0.14**
問39. (C) 占いは信じられる	-0.01	-0.20**	0.15**
問39. (D) 体の不調は、近代医薬より自然治癒を重視すべきだ	0.12**	-0.05	-0.08
問39. (E) 瞑想、霊、気功、ヨガなどに興味がある	0.05	-0.14**	0.04
問39. (F) 身近な自然ところを通わせた経験がある	0.08	-0.08	-0.14**

一般住民と原子力関係者の 原子力観(原子力発電に関する意識や感情) の比較

2005-2007年度調査より

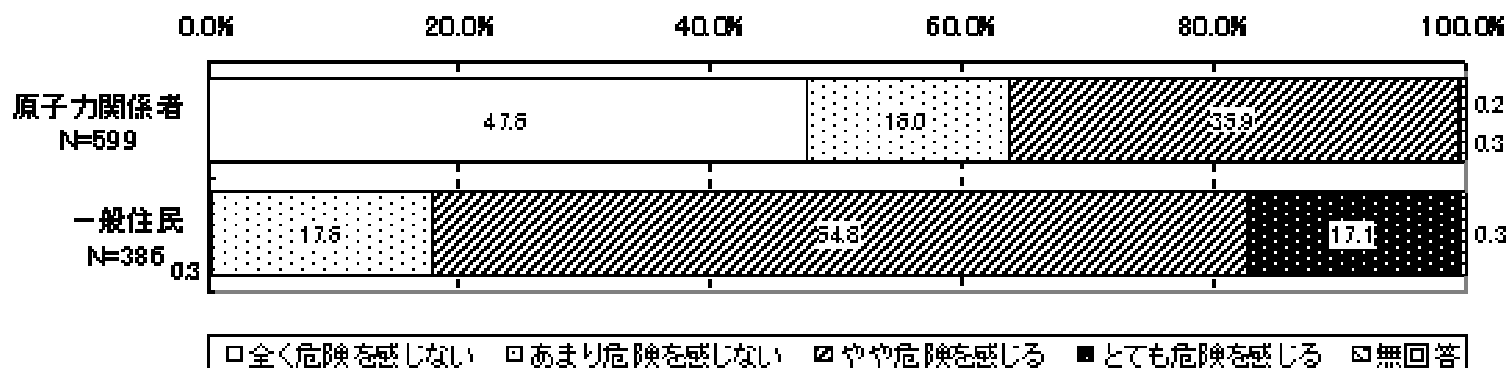
原子力発電の社会的許容

- 今後の日本の原子力発電の方向
- 関係者と住民の間にかんがりの違い
- 現状維持と増設をあわせれば、2/3が原子力発電所の存続を望んでいる

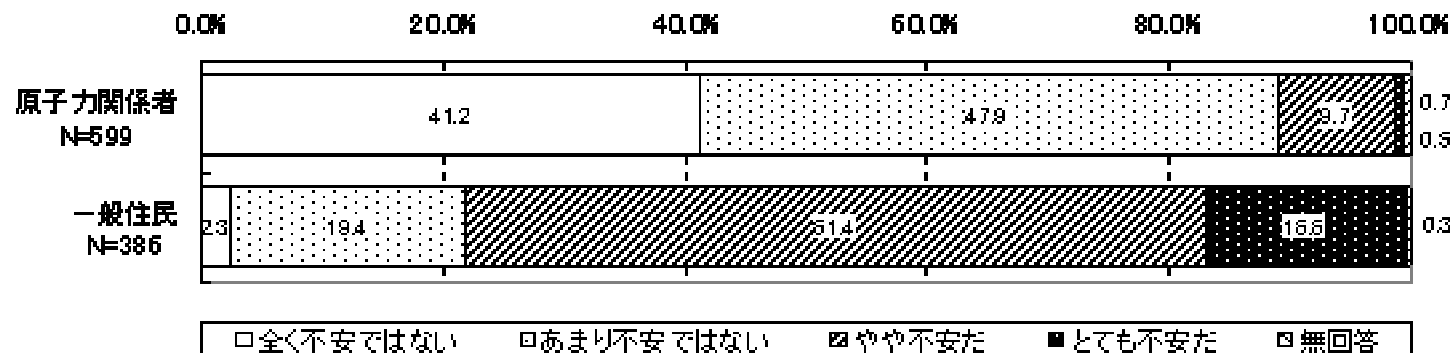


原子力発電への危険認識と不安

・危険認識は関係者と一般住民ではかなり異なっている

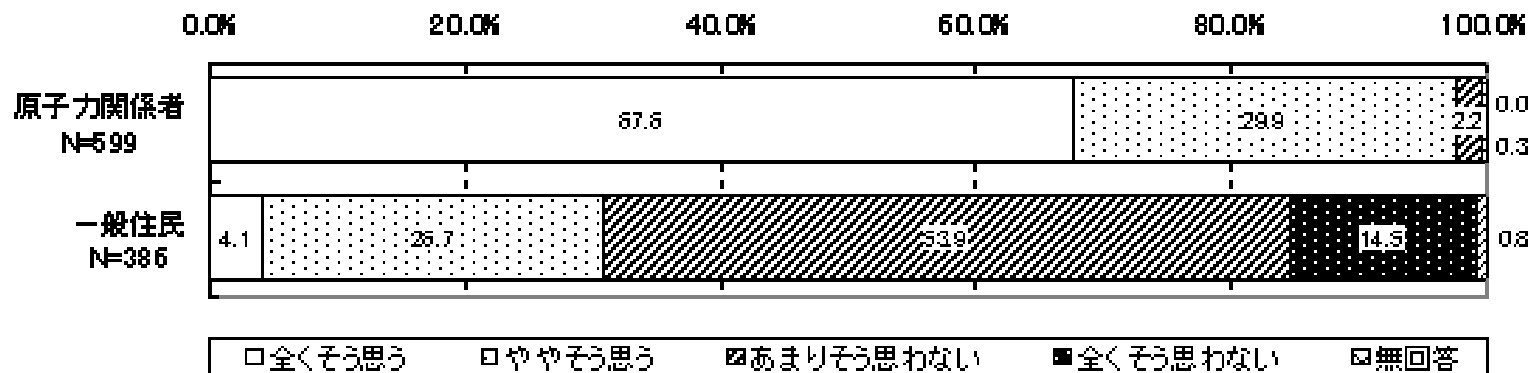


・不安感については、原子力関係者と一般住民の差はさらに大きくなる

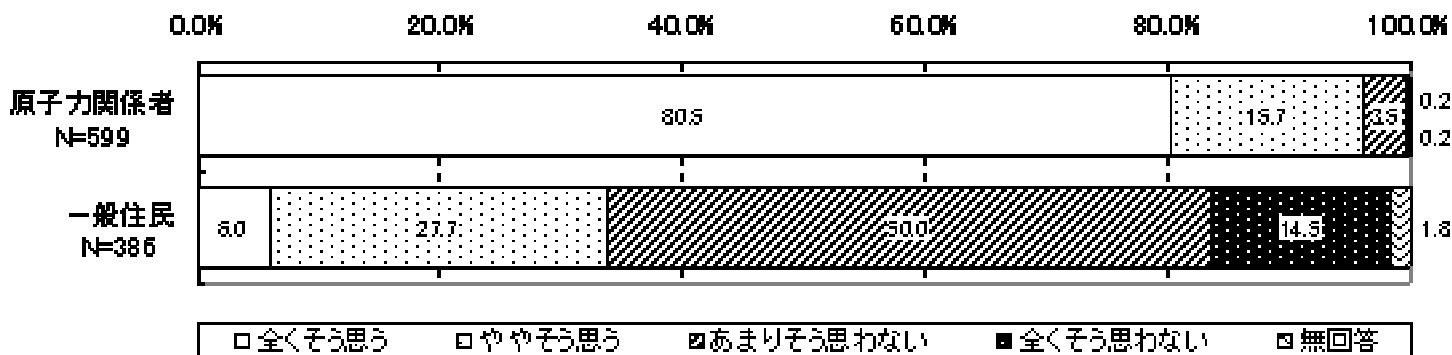


危険の技術的管理に関する認識

- ・原子力発電の危険性が技術的に管理されているという認識も、関係者と住民は大きく異なる



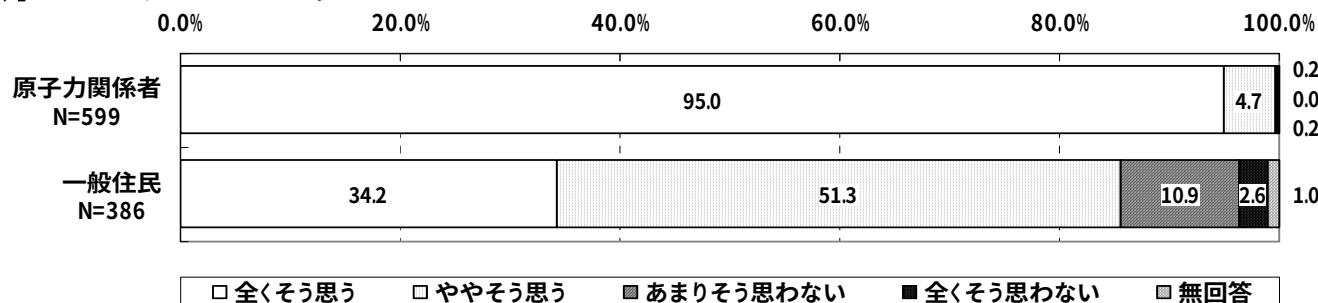
原子力発電所の放射線は自然に受ける放射線レベルより低く安心



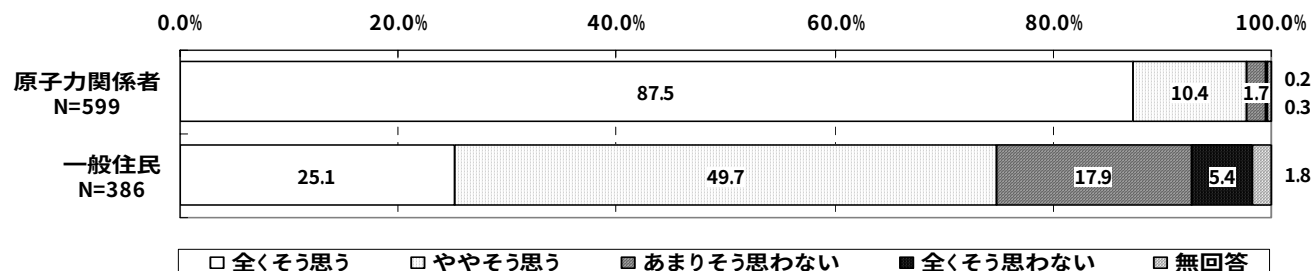
原子力発電の必要性について

- 原子力発電の必要性やメリットについては、関係者と住民の間に全体の回答傾向の類似性がみられる。

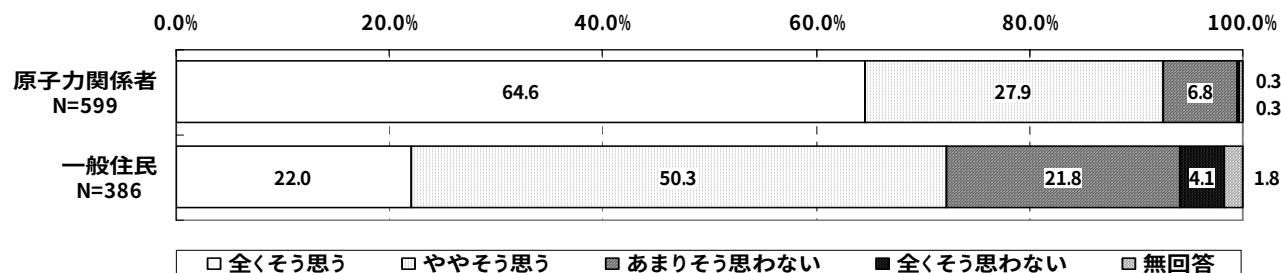
原子力発電は、エネルギー自給のために必要



自然エネルギーでは電力量を確保できないので原子力発電は必要



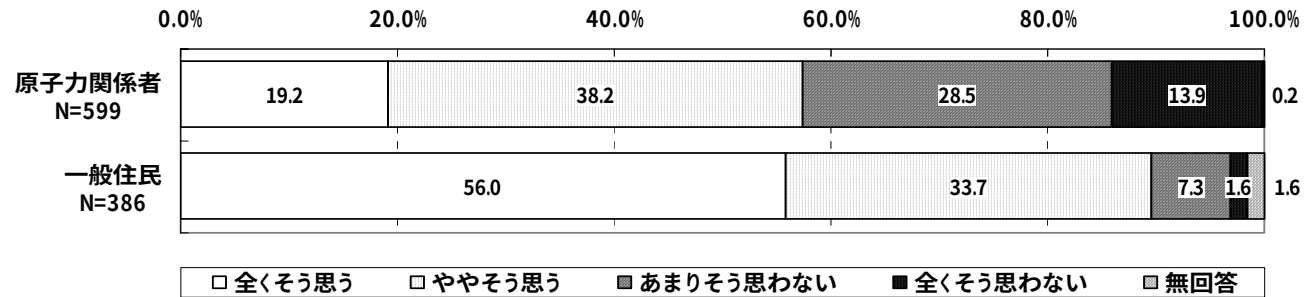
原子力発電は、経済的な観点から必要



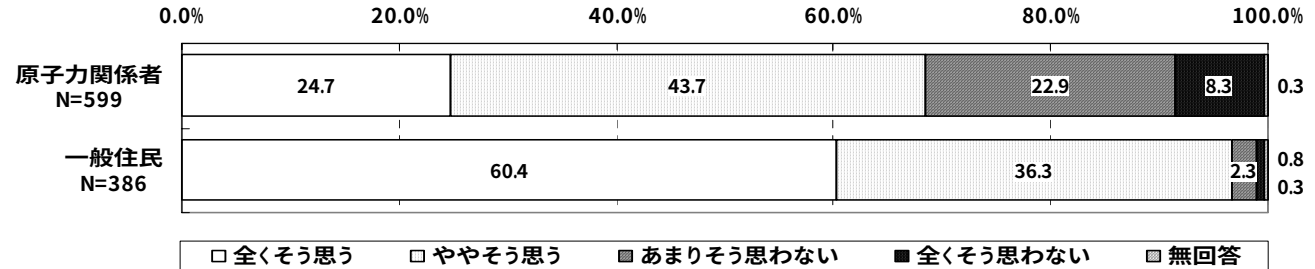
原子力技術への懐疑

- 原子力技術への懐疑的態度については、原子力関係者と一般住民にともにあるが、こちらは一般住民のほうがより懐疑的という方向で、程度の差がある。

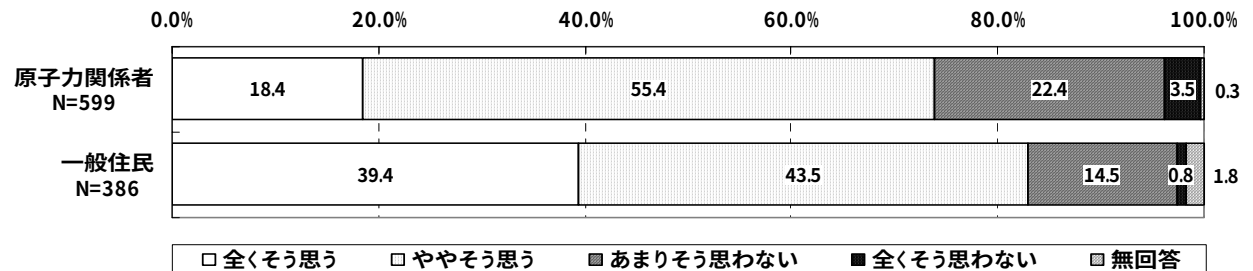
原子力発電所の安全対策は当然だが安心しきれるものではない



人間のやることに完璧はないので原子力発電所は安全と言えない



原子力事故は、人の不注意から起こるものだと思う

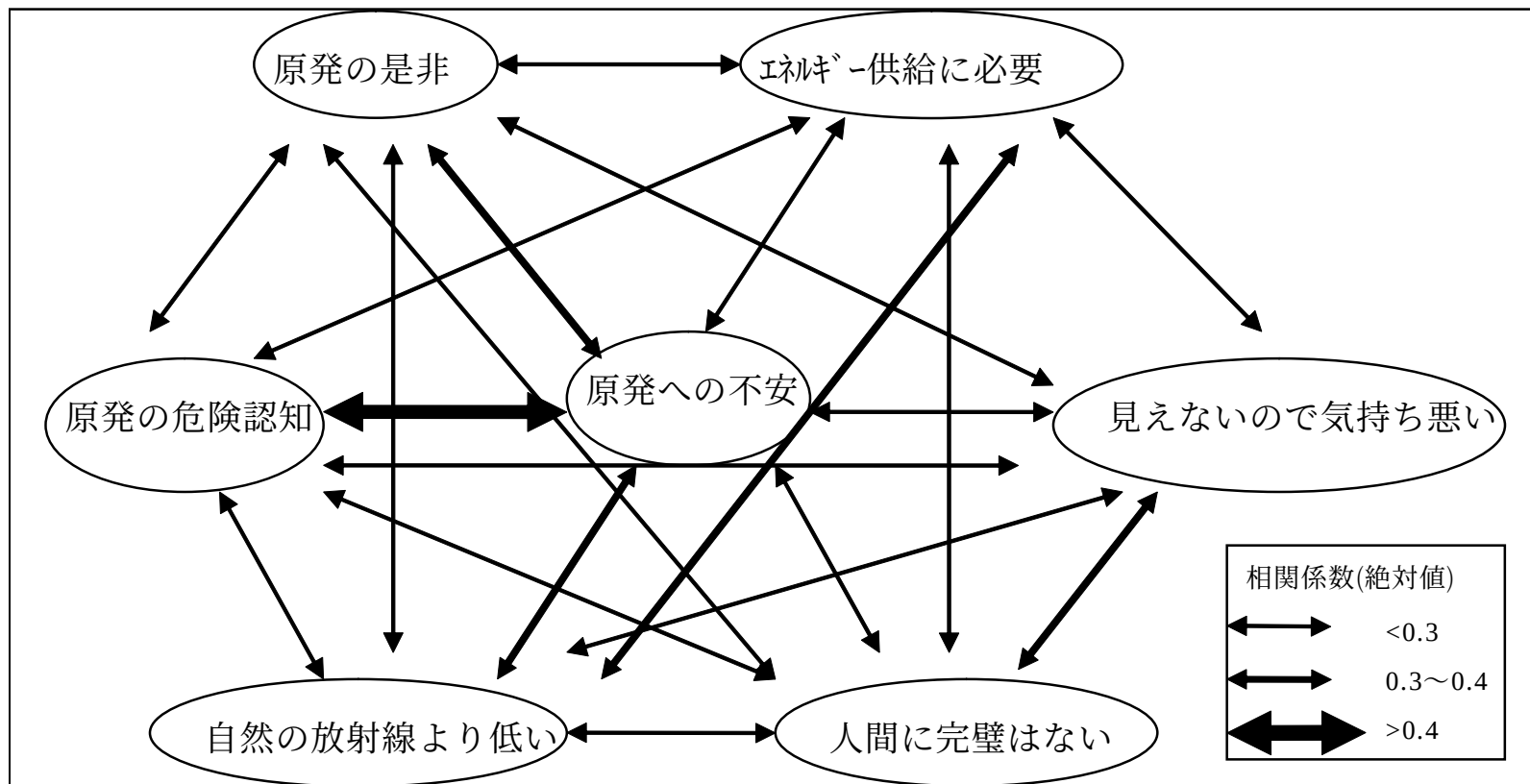


理性的一貫性vs.不安の中の許容

- 一般住民が反対派で、関係者が賛成派といったように、正反対の位置に対峙しているかという点、そう単純ではない。
- 相違には大きなものと少ないものがある。
- 関係者は、原子力発電に肯定的な方向で、一貫性をもつものに対して、住民は相矛盾する方向性を持っている。
- **原子力関係者**は危険性の認識が多少あっても、それは科学的に管理されていると考え、不安感が低下している→「**理性的一貫性**」
- **住民**は原子力の必要性は感じているものの、安全対策が十分とも、放出される放射線が少ないとも思っておらず、危険性や不安を感じる人が多い。しかし原子力発電所は現状維持や慎重に増設するべきなど、容認する考えが過半数を占めている。→「**不安の中の容認**」

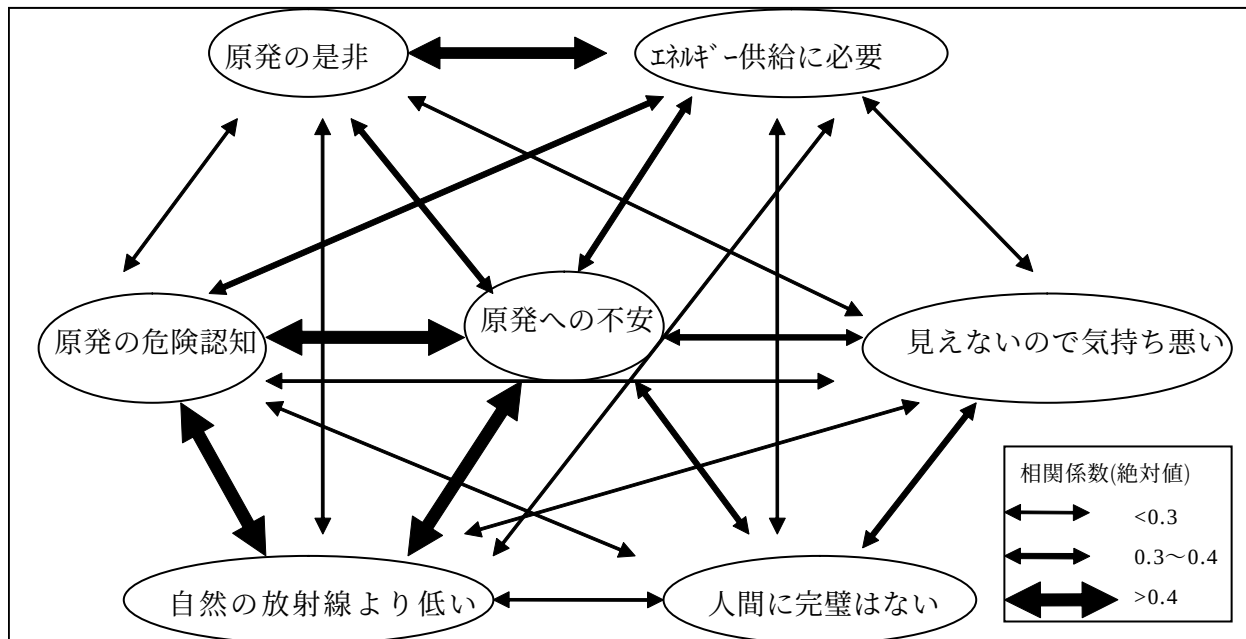
原子力関係者における相関関係

- 原子力発電の不安と危険性の認知の間にとっても強い関係性が見られる。



住民における相関関係

- ここで最も強い相関関係は、原子力関係者と同様に、原子力発電に対する不安と危険性認識の間にみられる。その相関係数は0.762と原子力関係者の場合より高く、回答分布もほぼ同様なので、住民では不安と危険認識が一心同体化しているといえる。
- 住民で原子力発電の是非と最も関係の深いのは、原子力発電のメリットである。一般の人は不安や危険を感じつつも、原子力発電のメリットがあるので原子力発電を許容している→「大人の態度?」
- こうした状況では、トラブルなどにより、原子力発電に対する不安が高まると、人々の間のストレスが著しく高まってしまう



意識の浮動性と固定性

- 原子力発電所の是非は中越沖地震後もほとんど変動がない

	積極的に 増設する	慎重に増 設する	現状を維 持する	将来的に は廃止する	早急に廃 止する	わからな い	無回答
原子力関係者'07	35.6	53.9	7.7	1.3	0.2	1.2	0.2
一般住民'08	3.6	31.6	29.8	21.2	2.8	10.9	-
福井'06	0.7	30.9	31.2	19.0	3.3	14.9	-
東京'06	2	32.2	18.4	24.1	2.4	20.8	-

一方、原子力発電の危険性の認識や、不安感はトラブル後に増加

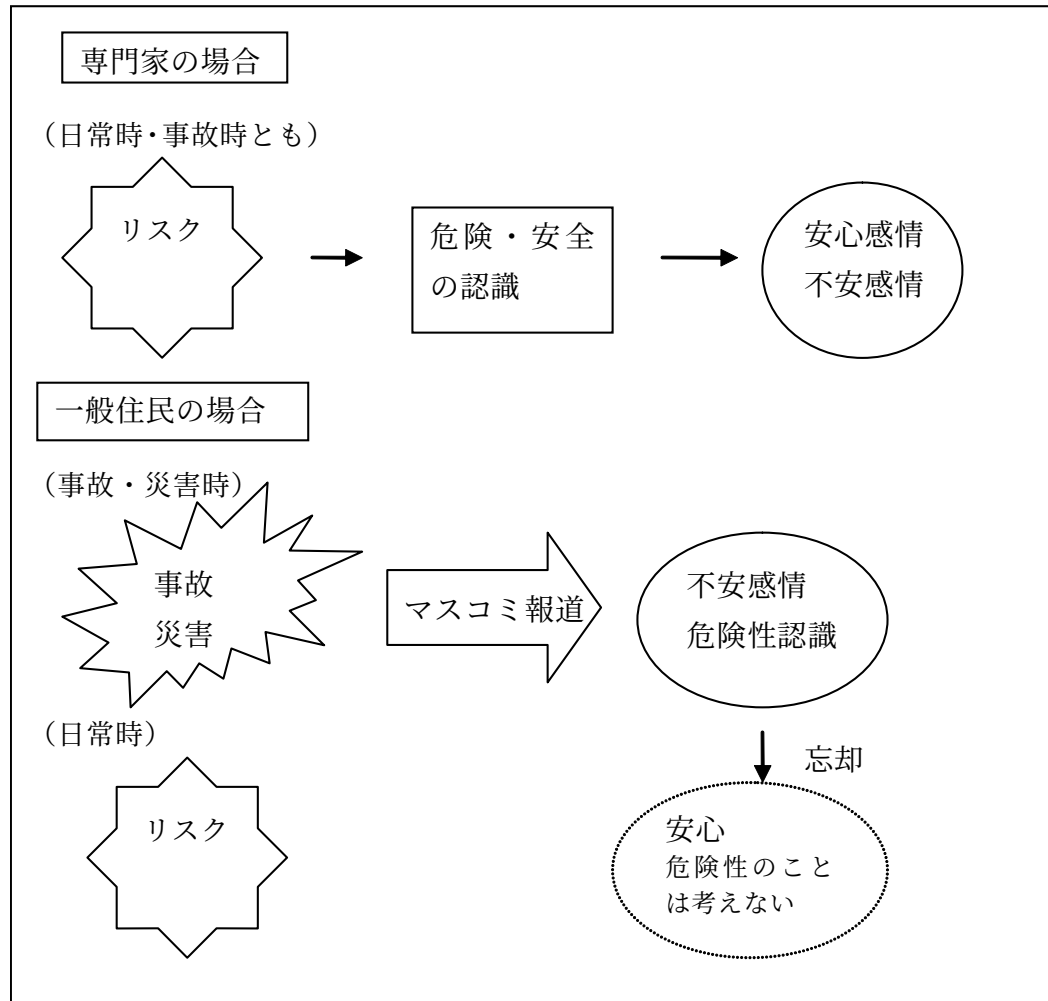
	全く危険を感じない	あまり危険を感じない	やや危険を感じる	とても危険を感じる	無回答
原子力関係者'07	47.6	16.0	35.9	0.2	0.3
一般住民'08	0.3	17.6	64.8	17.1	0.3
福井'06	3.3	27.9	48.3	19.7	0.7
東京'06	2.4	32.7	55.5	9.4	-

	全く不安ではない	あまり不安ではない	やや不安だ	とても不安だ	無回答
原子力関係者'07	41.2	47.9	9.7	0.7	0.5
一般住民'08	2.3	19.4	61.4	16.6	0.3
福井'06	3.7	29.0	47.6	19.7	-
東京'06	2.4	32.2	55.9	9.4	-

原子力報道への見方

- 変動する不安と報道

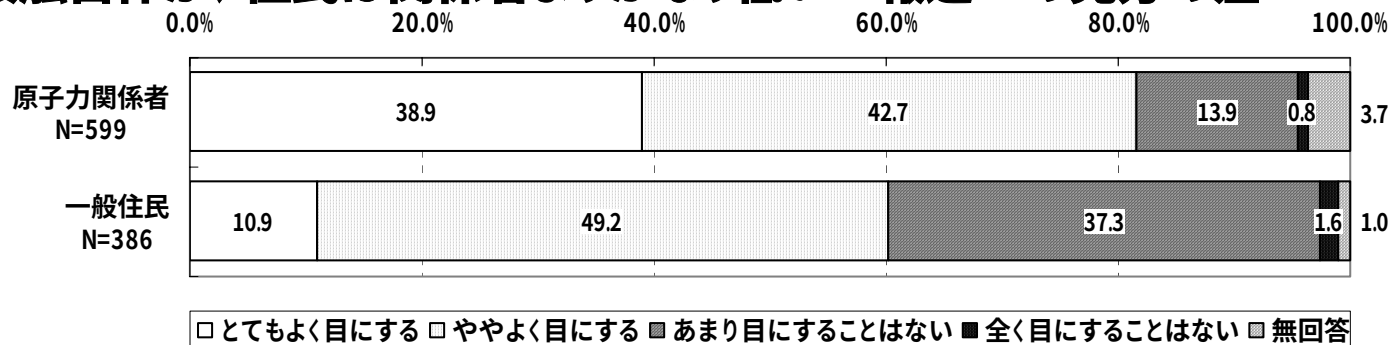
不安—安心のメカニズム



「不安をあおる」報道

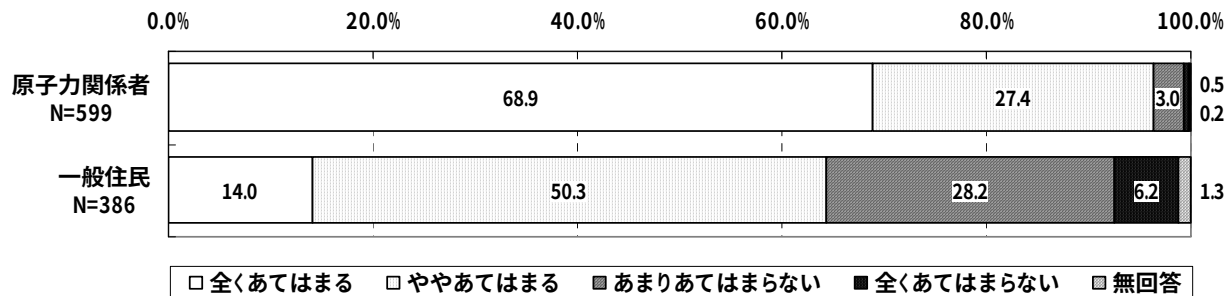
・事故報道への接触自体が、住民は関係者よりかなり低い→報道への見方の差

原子力発電所の
事故に関する報道
を目にする頻度

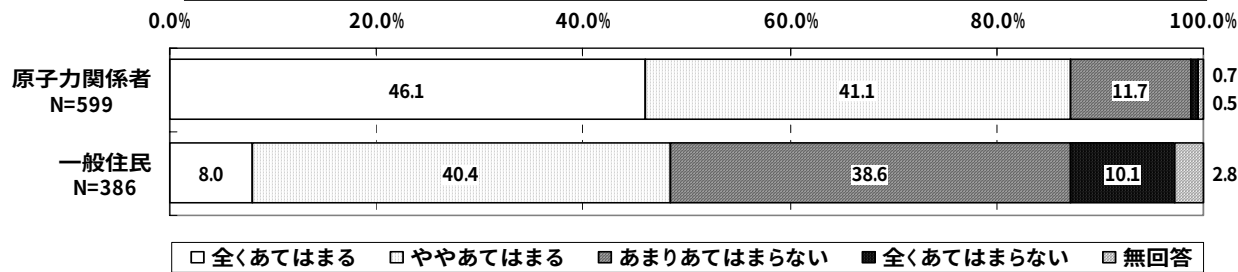


・原子力関係者は、住民よりも報道に対して大変厳しい見方をしている

危険性を強調し、不安を
あおる報道が多い



原子力事業者を悪者扱
いしている報道が多い

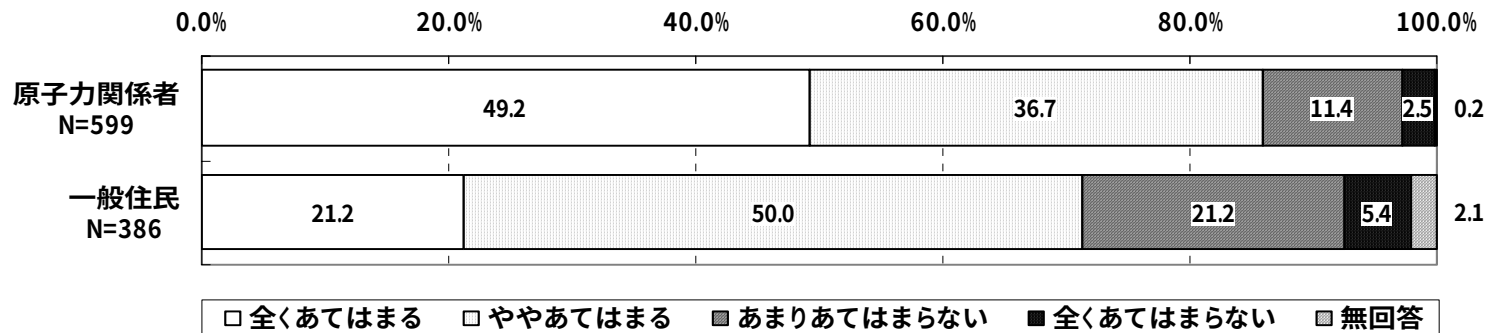


・関係者が自意識過剰や被害者意識に陥いる危険性

報道と風評被害

- 風評被害の防止について、原子力関係者は住民よりも報道を重視している

報道が正確・詳細に情報を伝えれば、風評被害は防げる



危険は伝えやすく安全は伝えにくい

- 「大変だ!」がマスコミの本質
- 短期間の悪い変化は伝えやすいが長期的な良いこと(安全)はつたえにくい

「世界第二の国」 長寿ナンバーワン
公害はいつ終わった(多摩川のアユ)

BSEは?SARSは? O157は? はしかは?ノロは?

交通事故死は激減

95年10,679人(事故件数761,789)→2006年6,352人(事故件数886,864)

殺人事件は半減 1955年3066件→2004年1419件

災害事故死も2ケタ減 1958年2089人→2001年23人

飛行機は安全か?(日航ジャンボ機)

地下鉄は安全か(日比谷線脱線)

デパート・ホテル火災は?

安全は忘却と上塗り?

- 安全は説得しにくい
- 忘却 ←安全運転による
- 他イメージの上塗り

BSE 吉野家の味が恋しい

定番の「白い恋人」「赤福」消えてさみしい

飛行機 スッチー 格安チケット 海外旅行

デパート・ホテル 高級サービス ブランドもの

(原発 CO2削減 原油高騰対策?) たのしいイメージが弱い

原発で寒中水泳?

- 人は客観的安全性によって判断しているわけではない